

もとみやかをる年表（1963–2022）中ザワヒデキ作成（2026.06.24）

MOTOMIYA Kaoru Chronology by NAKAZAWA Hideki

※P01、P02、……、P19は、2018年に最終更新された本人のウェブサイトでのプロジェクト番号に対応。

※P01, P02, ..., and P19 correspond to the project numbers used on the artist's website, which was last updated in 2018.

1963.12.28 0歳【Life】

父・本宮英治、母・本宮和子の長女として東京都府中市で出生。香（かおり）と命名される。住所は東京都町田市。<photo by SUZUKI Moeka>

1969.10.01 5歳【Life】

妹の千秋（ちあき）誕生。

1971.09.13 7歳【Life】

北海道室蘭市に移住。

1973.11.26 9歳【Life】

福岡県福岡市南区に移住。

1976.08.27 12歳【Life】

岡山県倉敷市に移住。

1978.09.02 14歳【Life】

東京都調布市に移住。

※小中学生の間は父の転勤に伴い転校を繰り返し、そのたびに校則や教育内容が異なっていたことから、あまり規則や組織といったものを信用しなくなったと後に語っている。<photo by SUZUKI Moeka>

1982–1984 18–20歳【Education】

武蔵野美術短期大学デザイン科

Department of Design, Musashino Art University Junior College of Art and Design

※ポートフォリオにはシルクスクリンを学んだとある。この頃、グラフィックデザイナーの羽良多平吉のアシスタントをしたり、八木康夫の仕事を手伝ったり、式田純のStrange Classicで働いたりしていた。

1984.03.30 20歳【Life】

東京都国立市に移住。

1987.04.23歳【Graphic Design】

JAGATARA『UKI UKI』（ドクター・レコード）12インチ・シングルのカバーデザイン

1987.05.24 23歳【Graphic Design】

『Hi! Idei Vol.3（CSV）カセットブック（P-Model、佐伯健三&どくろ団、Szygys、Art Core Funkほか19組によるコンピュータレーション）のカバーデザイン

1987.09.25 23歳【Graphic Design】

EXPO『エキスポの万国大戦略』（アルファ・レコード）レコード、カセット、CDのカバーデザイン

1988【Group】

International Art Expo '88（要確認）Lucia Gallery、ニューヨーク

International Art Expo '88（to be confirmed）, Lucia Gallery, New York

1988.07.21 24歳【Graphic Design】

ゲルニカ『新世紀への運河』（テイチク）レコードジャケットのデザイン

1989 25歳【Graphic Design】

グラフィックデザインなどで、遅くとも1989年には「SÜSS」（ジュース）という屋号を用い始める。

1989.03.05 25歳【Graphic Design】

ゲルニカ『電離層からの眼指し』（テイチク）レコードジャケットのデザイン

1989.09.01 25歳【Graphic Design】

メトロパルス『Good Morning Mr. Talisman』（ポリドール）レコードジャケットのデザイン

1990.04.26歳【Graphic Design】

個人事務所SÜSSを東京都渋谷区東の会社STRANGE内に開設し、東京都目黒区八雲で一人暮らしを始める。

※SÜSSですぐにアシスタントを使うようになり、STRANGEが入居していたマンションの部屋の敷金も借りることとなる。アシスタントのミツキマユミと「Shell O.T.K.」と称し、貝殻やタコフネ、海鼠の標本などのコレクションを充実させる。

1990.09.11 26歳【Life】

父・本宮英治逝去（享年54歳）。

1990 26歳【Artwork】

初期作品のひとつ、厨子型の「ルンキラモ」制作。裏面中央には亡父・本宮英治の戒名である釋智英ほかの文字が書かれた札が貼付されている。本作は、欧文字フォントのみで構成されたポストカードのシリーズでは「Lost treasure」と表記されており、英語での名称と考えられる。当時、あるグループ展に出品され購入希望者が現れたが非売とし、その後生涯を通じて作家の手元に置かれた。裏面左隅には後年、「ルンキラモ 一九九〇年 亡父英治と風天兎（「ルンキラモ」とルビが振られている）の厨子 なかざわかをる 旧 もとみやかをる」と筆で書き入れられている。

1991.01.22 27歳【Graphic Design】

太田敏一『働く僕ら』（リプロポート）本のデザイン（造本）

1991.10.頃 27歳【Graphic Design】

Macintosh Quadra 700を使い始める

1992.03.11 28歳【Graphic Design】

美術家の中ザワヒデキ（当時はイラストレーター、マルチメディア・アーティスト、1963生まれ）とともに東京都目黒区中目黒に有限会社アロアロインターナショナルを設立し取締役就任。以後のグラフィックデザインは「アロアロインターナショナル本宮かをる」名義で発表されることが多くなる。同所に移住。

1992.09.21 28歳【Life】

中ザワヒデキと結婚。9月12日にアルプス山中のムットホルンヒュッテ（スイス）で挙式、21日に婚姻届を東京都目黒区に提出。その後、横浜中華街で披露宴。本名は中澤香となるが本宮かをるの名前で活動。※披露宴には、当時交流していた東京シミュレーションニズムの作家たちや関係者も多く参加した。<photo by SUZUKI Moeka>

1993 29歳【Artwork】

アロアロインターナショナル名義で帽子であり作品である「ホエールキャップ（尾紋ID入り）」「ホエールキャップ（尾紋ID無し）」を発売。

1993.04.04 29歳【Group】

銀座1丁目から8丁目各所で開催された「ザ・ギンブラート」オープニング・アクトに中ザワヒデキとのユニット「アロアロフサイ」として参加し、夫妻で銀ブラをするパフォーマンス作品《A Day in Ginza》を発表。アロアロフサイは当初匿名の構成員によるユニットとすることをしていたが、そうはならなかった。

1993.08.11【Graphic Design】

アロアロインターナショナルが東京都世田谷区経堂に移転、同所に移住。会社では常時複数のアルバイトに来てもらうようになり、大岡寛典、前田雅子、塚野里子、橋本菊子、池松江美（のちの辛酸なめ子）ほかがいた。

1993.10.09–31【Solo】

アロアロフサイとしての個展「世界のアロアロフサイ展」なすび画廊、東京

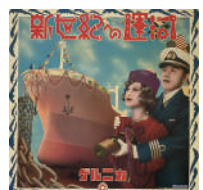
※案内状の裏面はアロアロインターナショナル取締役通知となっており、表記は本宮かをるとなっている。アロアロフサイとしての活動には、ほかに「Suika Project」があった。

1994.04.23 30歳【Group】

「新宿少年アート」La Jetée、新宿ゴールデン街、東京。

「Shinjuku Shonen Art」La Jetée, Shinjuku Golden Gai, Tokyo

※ジュテで1日アートバー・ママをする作品。



1994.12.15 30歳【Certification】

裏千家茶道「入門」「小習」「茶箱点」受伝。

1995.01.15 31歳【Artwork】

アロアロインターナショナルのフロッピーディスク・レーベル「ALOALO FLOPPIES」の第6弾として、もとみやかを名義で「解剖日記」(Macintosh フロッピーディスク) 発行。

1995.03.18-21 31歳【Solo | P13 Hairball Machines】

「KAORU MOTOMIYA」NICAF YOKOHAMA'95 Artist Booth.

"KAORU MOTOMIYA" Artist Booth, NICAF YOKOHAMA '95

※美術家としての最初の個展と本人は位置づけている。黒い御影石で作られた台座に1995年作のヘアボールマシン《ラビオン1号》"Rabbion No. 1"、《ラビオン2号》"Rabbion No. 2"、《エヴァ1号》"Eva No. 1"、《エヴァ2号》"Eva No. 2"を設置、壁には1994年作の《131 Buttons and Buttonholes》、《170 Buttons and Buttonholes》を展示。

1995.03.21 31歳【Artwork】

「ALOALO FLOPPIES」第8弾として、もとみやかを名義で「Button*Mania」(Macintosh フロッピーディスク) 発行。

※NICAF YOKOHAMA'95 に出品したボタンの作品の関連作品。ハイパーカード (マルチメディア)。

1995.05.31 歳【Research】

アロアロインターナショナルの「Medical Laboratory series」第1弾、第2弾として、東京大学医学部標本室+ALOALO International 編「東京大学医学部標本室」、「プラスティネーションという技術 (Procedure=作製方法)」(Macintosh フロッピーディスク) 発行。

1995.09.15-11.26 31歳【Research】

「人体の世界展」国立科学博物館 (データ出版)

1995.09.15 31歳【Research】

「Medical Laboratory series」第3弾として、「Plastination」(Macintosh 対応 CD-ROM) 発行。監修: 養老孟司、企画制作: 増田弥生・本宮かをる、協力: 吉田穰/東京大学医学部標本室。「人体の世界展」(国立科学博物館) にてデータ公開。

1996 32歳【Artwork】

MOJOWORK 制作の「PIN-UPS vol. 1 winter '96 / HAND」に参加。作品は《Desk Top 身体論》。

1996.03.19-04.07 32歳【Solo | P13 Hairball Machines】

「Rabbit Project」デジタルギャラリー、東京

"Rabbit Project" Digitalogue Gallery, Tokyo

※フライヤーには次の文言がある: ヘアボール・ラビットやヘアボール・ガールのなかに手を入れると、そこはなんだかあったかくて、ぶよぶよしているインナー・スペース・・・もとみやかをるの「ヘアボール・シリーズ」は、ウサギを解剖した経験から生まれた、触感体験型マシン。目を瞑って指先から感じるアートを体験しに、どうぞいらしてください。プラスティネーション作品や作家の出版データも同時に展示されます。個展初日にバグ犬 (雄、0歳) を家族として迎え入れ、ばぐちよと命名。

1996.5.21 32歳【Artwork】

さるすべりFD文庫より「エルニド日記」(MS-DOS Text Files) 発行。

1996 32歳【Website】

ホームページ「もとみやかをる作品活動記録」創設。

1997.01.14-02.02 33歳【Solo | P11 Wild Portraits ほか】

「Rabbit Project 2」Harajuku Gallery, 東京

"Rabbit Project 2" Harajuku Gallery, Tokyo

※大型作品の《七兎》"Rabbits in the garden" や、《双兎》"A double-headed rabbit" ほかの掛け軸のシリーズと、ヘアボールマシンの新作が発表された。前年の「Rabbit Project」とこの「Rabbit Project 2」が11月の「Rabbit Project Tour '97」に展開する。だがその後、生物一般に関心を広げ兎にこだわるのをやめたことから、後年における自身のプロジェクト分類には「Rabbit Project」という項目はなく、「動物の肖像」と「ヘアボールマシン」の2つの項目に分割記述されることとなる。

1997.02. 33歳【Research】

掲載: オルリー・レジス、本宮かをる「Baroque Anatomy Masterpieces as Models for Plastinated Specimens」『Journal of the International Society for Plastination』第12巻第1号、18-21頁。

1997.05.21-07.04 33歳【Research】

企画運営: 特別展「プラスティネーションの拓く世界」東京大学教養学部自然科学博物館

"The Possibilities Brought to Us by Plastination" Natural Science Museum, University of Tokyo (planning and direction)

展覧会冊子に「概説・人体保存技法の歴史 [Human body conservation]」8-11頁、「プラスティネーションとは」12頁、「作製の手順」13頁、「展示の補遺・人体のプラスティネーション標本」18-19頁を執筆。

1997 33歳【Research】

白石市立情報センターギャラリー常設展示作品として《Visible Inside》を制作、提供。

1997 33歳【Group】

「Morphe '97 連鎖」デジタルギャラリー、東京

"Morphe '97: Transmission" Digitalogue Gallery, Tokyo

1997.06.04 33歳【Life】

中ザワヒデキのギャラリー NW ハウスでの個展初日に、バグ犬 (雄、0歳) を家族として迎え入れ、ほんちよと命名。バグ犬は、ばぐちよとほんちよの計2頭となる。

1997.09.10【Research】

掲載: オルリー・レジス、本宮かをる「ベレッティエー二解剖図譜における自律神経系」『日本医史学雑誌』第43巻第3号、362-363頁 (1997年9月10日発行)。同題の講演を10月10-11日、第98回日本医史学会総会 (福岡市博物館) で発表。本宮かをるの肩書は東京大学教養学部総合文化研究所。

1997.10. 33歳【Research】

掲載: オルリー・レジス、本宮かをる「Paolo Mascagni, Ernest Alexandre Lauth and Marie Philibert Constant Sappey on the Dissection and Injection of the Lymphatics」『Journal of the International Society for Plastination』第12巻第2号、4-7頁。

1997.10.27-11.22 33歳【Solo | P11 Wild Portraits ほか】

「見えざるもの眺め Part 1: RABBIT TV (うさぎ TV)」SAI Gallery, 大阪

"The view of the invisible, Part 1" SAI Gallery, Osaka

1997.11.01-30 33歳【Solo | P13 Hairball Machines ほか】

「見えざるもの眺め Part 2: TENT (テント)」パナソニック・デジタル・アート・スクエア、大阪

"The view of the invisible, Part 2" Panasonic Digital Art Square, Osaka

1997.11.14-30 33歳【Solo | P10 Beyond the Gravity ほか】

「見えざるもの眺め Part 3」デジタルギャラリー、東京

"The view of the invisible, Part 3" Digitalogue Gallery, Tokyo

※Part 1, 2, 3の全体は「もとみやかをる展 Rabbit Project Tour '97 見えざるもの眺め」と称され、企画協力:

原久子 (ハロ・アート・オフィス)、制作協力: 空間工房タシトフクシマ、映像協力: 佐々木成明ほかがクレジットされている。パンフレットには「眠り続ける脳・Rabbion3号 (ヘアボール作品) が、大阪と東京の3会場を移動しながら Exhibition をナビゲイトします」「会場のもうはインターネットで中継されますのでごらんください」等とある。Performer: 花岡安佐枝、Music: 田島和枝 (笹) による2回の会場移動に伴うパフォーマンスは以下の通り:

ACT. 1 (JR To-zai-sen) 1997.11.1/18:00

作品 [Rabbion3号] が、第一会場サイギャラリーの芝生から起きあがり、作品 [BabyWalk] に乗って、第二会場デジタルアートスクエアへ向かい、作品 [TENT] のなかの芝生に落ち着きます。Rabbion3号が一週間過ごしたサイギャラリーの芝生のうえにはうさぎ型の「痕跡」が印されますが、やがて草がそれを覆ってゆきます。

ACT. 2 (Shin-kan-sen) 1997.11.14/13:00

Rabbion3号がBabyWalkに乗って、第二会場デジタルアートスクエアの芝生から、東京神宮前第三会場デジタルギャラリーへ向かいます。窓際の芝生に横たわり、ガラス越しの景色を眺めます。Rabbion3号が二週間過ごしたデジタルアートスクエアの芝生のうえには、やはり作品の「痕跡」のみが残されます。

1998【Research】

掲載: 本宮かをる「ライデン博物館訪問記ー蘭学の源流を訪ねてー」『ミクロスコピア』15巻2号、124-129頁 (1998年夏号)。

1998.04.20【Research】



掲載：オルリー・レジス、本宮かをる「ベレッティーニ解剖図譜における自律神経系（第2報）」『日本医学雑誌』第44巻第2号、238-239頁。同題の講演を5月16-17日、第99回日本医学史学会総会・学術大会（函館国際ホテル）で発表。

1998.06.30-07.10 34歳【Group | P10 Beyond the Gravity】
「フィリップモリスアートアワード 1998 最終審査展」東京国際フォーラム。
"Philip Morris Art Award 1998 Final Selection Exhibition" Tokyo International Forum.
※Rabbit Project Tour '97 で活躍した[BabyWalk]を自動走行させ映像パートも加えた《よちよち歩き》"Babywalk"を出品。

1998.07.02 34歳【Award】
フィリップモリスアートアワード 1998 受賞。
Philip Morris Art Award 1998.
※「フィリップモリスアートアワード 1998 最終審査展」にて選考され受賞となった。

1998.12.11 34歳【Life】
アロアロインターナショナルが東京都渋谷区本町に移転、同所に移住。なお同社は1996年頃よりデザインやイラストレーション、マルチメディア関連の受注を減らし、アルバイトも減らし、取締役のもとみやと中ザワはそれぞれの美術家としての活動に専念するようになっていた。

1999.01.29-03.20 35歳【Group | P10 Beyond the Gravity ほか】
"First Steps II: Emerging Artists from Japan" Grey Art Gallery, ニューヨーク
"First Steps II: Emerging Artists from Japan" Grey Art Gallery, New York
※フィリップモリスアートアワード入賞者7名による展覧会

1999.04.20 35歳【Research】
掲載：本宮かをる、オルリー・レジス「足立文太郎のひとと業績について」『日本医学雑誌』第45巻第2号、270-271頁（発行1999年4月20日）。同題の講演を5月15-16日、第100回日本医学史学会総会・学術大会（順天堂大学有山記念館講堂、東京）で発表。

1999.10.04 35歳【Solo | P05 Trace the Skin】
オープンスタジオ フレームワークギャラリー、東京
Open Studio Framework Gallery, Tokyo
※プラスマイナスギャラリーの助成により、捕鳥網と約8,000個のマッシュマロから成る《内なる被服》を制作して公開。写真撮影した黒川未来夫によると、モデルの男性の外国人がとても印象的で、セットの転換時に裸のままピアノを弾き歌い始めたのだという（曲はデイヴィッド・シルヴィアン「セブテンパー」）。また、友人で元ゼルダのサヨコも生まれたての娘と来て、黒川が娘のお尻を撮影、《内なる被服》の写真とともに彼女のCD「アンダートーン」のジャケットワークに使われた。

1999.10.15-11.28 35歳【Group | P13 Hairball Machines ほか】
"Fluffy" Dunlop Art Gallery, レジーナ、カナダ
"Fluffy" Dunlop Art Gallery, Regina, Canada

1999.12.30 36歳【Research】
掲載：本宮かをる「医資料としての実体標本および模型の保存と活用について」『日本医学雑誌』第45巻特集号、43頁（発行1999年12月30日）。

2000.01.04-02.29 36歳【Solo | P05 Trace the Skin ほか】
"floating body - 彷徨える身体 -" TEPCO 銀座館 プラスマイナスギャラリー、東京
"floating body" TEPCO Ginzakan Plus Minus Gallery, Tokyo
※プラスマイナスギャラリーの助成により制作された《内なる被服》と、それまでの近作の多くを再展示。

2000.03. 36歳【Group | P12 Release】
"Morphe 2000 亜細亜遺伝子" 小原流会館、東京
"Morphe 2000 Asian Meme" Ohara School Hall, Tokyo
※「和菓子の鋳型を用いてかたどられた鮎が、青山の街に放流される」という作品《落鮎》の発表。

2000 36歳【Group】
"So" 東京造形大学附属マンズー美術館、東京
"So" Manzu Museum of Zokei Arts College, Tokyo

2000.04.04-28 36歳【Solo | P05 Trace the Skin】
「皮膚の領域」ミヅマアートギャラリー、東京
"Trace the Skin" Mizuma Art Gallery, Tokyo
※《内なる被服》と《内なる掛布》を組み合わせたセットとして吊るし、ベッドや洗面台、鏡も加えて設置。ほかにはプラスティネーションを思わせる《1.8メートルに引き延ばされた、あし》"a leg, extended to 6 ft."《20センチに引き延ばされた、した》"a tongue, extended to 8 in."等のシリーズや、それらに対応するフォトスケッチ、また、自己の境界を示すパスポートほかを《無題》として出展。《内なる被服》"Internal Dress"と《内なる掛布》"Internal Quilt"のセットを含む複数の作品が高橋龍太郎コレクションに所蔵される。

2000 36歳【Grant】
ACC ロックフェラーシップ文化交流派遣員
ACC Rockefeller Fellowship
※これにより渡米し、2000年9月頃より Headlands Center for the Arts（サウスリート、カリフォルニア）、続けて2001年1月からISP（ニューヨーク）で滞在制作。

2000.09. 頃-12. 頃 36歳【Residency | P07 California Lemon Sings A Song ほか】
Headlands Center for the Arts（サウスリート、カリフォルニア）滞制作
Artist-in-Residence, Headlands Center for the Arts, Sausalito, California
※ここで《歌うレモンミサイル》"Singing lemon missile"や《その重力を超えて》"Over the Gravity"を制作展示し、Tea ceremonyやSushi poppingも開催。また、滞在中に行った《ヘッドランドアートセンターの壁のひびのドローイング》"Paper drawing tracing the cracks on the wall of artist's studio"は「修復と再生」プロジェクトへと繋がってゆく。

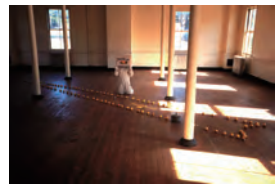
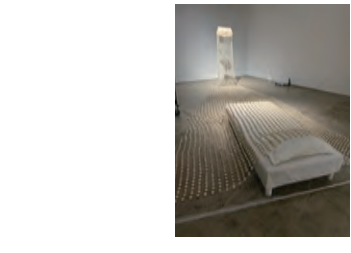
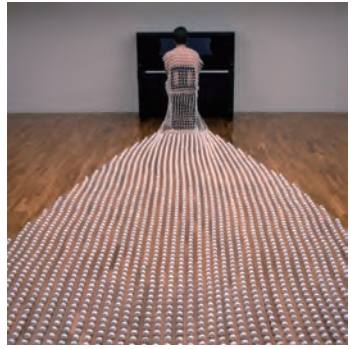
2000 36歳【Group | P07 California Lemon Sings A Song】
"Fuzzy Logic" Southern Exposure, サンフランシスコ
"Fuzzy Logic" Southern Exposure, San Francisco
※《歌うカリフォルニアレモン》"California lemons sing a song"を展示

2001.01.-04. 頃 37歳【Residency | P01 Restoration Regeneration】
ISP（ニューヨーク）滞制作
Artist-in-Residence at ISP, New York
※トライベッカ地区のISPのスタジオの床が疵だらけで酷い状態であったことから、包帯や絆創膏を当てて治癒を期待する作品（11番スタジオのための修復）"a patch of the floor at studio #11"ほかを制作。これがその後長く続くプロジェクト「修復と再生」の起点となる。ちなみにISPは同年ヘルスキッチン地区に移転し、また、ISCPと称されるようになる。

2001.03.21-04.21 37歳【Group | P01 Restoration Regeneration】
"Absence/Presence" M.Y. Art Prospects, ニューヨーク
"Absence/Presence" M.Y. Art Prospects, New York
※キュレーション：Doryun Chong, 《Seven Pieces for Studio #11 of ISCP》を出品。

2001.04.-06. 頃 37歳【Residency | P06 Canon on the Table】
Banff Centre for the Arts（バンフ、カナダ）滞制作
Artist-in-Residence, Banff Centre for the Arts, Banff, Canada
※映像作品《溢れる》"Overflow"《ダンス・イン・G》"dance in G"ほかを撮影、制作、編集。また、《溢れる》"Overflow"を中心としたビデオインスタレーション（project kitchen 2001）の制作発表も行われた可能性がある。

2001 37歳【Group | P06 Canon on the Table】
Screening Presentation at Western Front, バンクーバー
Screening Presentation at Western Front, Vancouver
※映像作品《溢れる》"Overflow"を上映

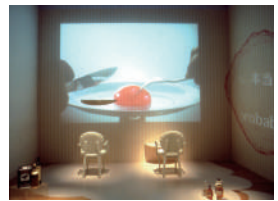


2001.06.02-17 37 歳 【Group | P05 Trace the Skin ほか】

「ニューヨークフィリップモリスアートアワード入賞者 24 人展」フジテレビフォーラム、東京
"New York Philip Morris Art Award: 24 Winners from 1996-2000" Fuji Television Forum, Tokyo
※《内なる被服、内なる掛布》"Internal Dress, Internal Quilt:《双兔》"A double-headed rabbit"の再展示。作家がバンフで滞在中だったため、ミヅマートギャラリーのスタッフが展示に立ち会う予定と記されたメールが残っている。

2001.06.23-07.01 37 歳 【Group | P05 Trace the Skin ほか】

「ニューヨークフィリップモリスアートアワード入賞者 24 人展」梅田ステラホール、大阪
"New York Philip Morris Art Award: 24 Winners from 1996-2000" Umeda Stella Hall, Osaka
※フジテレビフォーラムからの巡回展。



2002.01.18-03.24 38 歳 【Group | P06 Canon on the Table ほか】

「メタファーとしての医学 芸術と医学展」NTT インターコミュニケーション・センター (ICC)、東京
"Medicine as Metaphor/Art and Medicine" NTT InterCommunication Center, Tokyo
※2001 年にバンフで制作したと考えられるビデオインスタレーション《project kitchen 2001》を更新し、2002 年の新作ビデオインスタレーション《食卓の規範 (カノン)》"KITCHEN ver. 2.0, CANON"として展示。これは、映像作品《溢れる》を大きく壁に投影し、《拒否する食卓 ver. 2.0》"dining table of refusal, version 2.0"、《あの一れの日記》"eat or die"、そのほか冷蔵庫やテーブル、ソファなどと組み合わせさせたものだった。なおこの展示以降、これまで「project kitchen」と称されていたものは英語でも「Canon on the Table」と呼ばれるようになったと考えられる。



2002.02. 頃 38 歳 【Residency | P08 Telling Tasmanian Tales】

タスマニア (オーストラリア) の Solar Circuit レジデンシープログラムに参加
Participated in the Solar Circuit residency program in Tasmania, Australia.
※タスマニア島での制作を目前とした 1 月の時点で、ヒトや環境を含めた生態系自身の「新陳代謝」「自己再生 (創生) する力」について、タスマニアの森林を題材にウェブ中継で展開する、新しいプロジェクト《T. T. T. (Telling Tasmanian Tales)》の準備を進めていると語っている。／ In January, shortly before beginning her production activities in the island Tasmania, she stated that she was preparing a new project, T. T. T. (Telling Tasmanian Tales), which would be developed via live web broadcasts using Tasmanian forests as its subject matter and would explore the "metabolism" and "self-regenerative (creative) power" inherent in ecosystems, including human beings and the environment.



2002.03.25-03.30 38 歳 【Solo | P07 California Lemon Sings A Song】

「Private Project <Part V> landing」ペッパーズロフトギャラリー、東京
"Private Project <Part V> landing" Pepper's Loft Gallery, Tokyo
※キュレーション: Hiro Shirashi. 《歌うカリフォルニアレモン》"California lemons sing a song"の再展示

2002.10.09-11.09 38 歳 【Solo | P08 Telling Tasmanian Tales】

「修復と再生」ミヅマートギャラリー、東京
"metabolism" Mizuma Art Gallery, Tokyo
※ビデオ《タスマニアのはなしを語る》"Telling Tasmanian Tales (T. T. T.)"、東京都庁から提供されたタスマニア材再生紙シュレッター屑でできた《ベンジャミンの憂鬱》"Melancholic Benjamin"、東京都庁から提供されたタスマニア材再生紙の再生トイレットペーパーによる《1ヶ月に消費するトイレット・ペーパー 7.4 個》"7.4 Toilet Rolls / One Month"のほかによるビデオ・インスタレーション。個展タイトルまたはプロジェクト名としては、英語の「metabolism」(新陳代謝)に日本語の「修復と再生」(Restoration Regeneration)を当てている。個展 DM はニューヨーク、ISP での床の修復の画像である。

2002.10.27-31 38 歳 【Group | P07 California Lemon Sings A Song】

「ISEA2002 NAGOYA [往来]」第 11 回電子芸術国際会議)名古屋港ガーデン埠頭 4 号倉庫
"ISEA2002 NAGOYA [Orai] (11th International Symposium on Electronic Art)" No. 4 Warehouse, Garden Pier, Nagoya Port
※《日本に着陸した歌うレモンミサイル》"Singing Lemon missile arrived in Japan"の(再?)展示

2002 38 歳 【Grant】

文化庁派遣芸術家在外研修員
Overseas Research Program for Artists, Agency for Cultural Affairs, Japan
※これにより渡米し、2002 年 11 月より 1 年間、Snug Harbor Cultural Center (スタッテン島、ニューヨーク)にて滞在中。中ザワヒデキも同年度に同グラントを取り ISCP (ヘルズキッチン地区、ニューヨーク)にて滞在中制作となったため、ばくちよ・ぼんちよを連れ一家での 1 年間のスタッテン島での滞在となった。

2002.11.-2003.11. 38-39 歳 【Residency | P01 Restoration Regeneration ほか】

Snug Harbor Cultural Center (ニューヨーク) 滞在中制作
※Snug Harbor Cultural Center 内にスタジオと住居を持ち、同施設内の Newhouse Center for Contemporary Art ほかで個展やグループ展を複数回開催したほか、ISCP (ヘルズキッチン地区、ニューヨーク)にも短期間スタジオを持って公開制作を行い、さらにマドリッド (スペイン)、ノヴィサド (セルビア)、バンフ (カナダ)、ソムター (米サウスカロライナ州)、トロント (カナダ) にも赴いて短期の滞在中制作や展示を行った。

2003.02.13-18 39 歳 【Group | P06 Canon on the Table】

「Futuribles, ARCO 2003」IFEMA、マドリッド
"Futuribles, ARCO 2003," IFEMA, Madrid
※ミヅマートギャラリーから出展。ビデオインスタレーション「食卓の規範」の再展示。／ Exhibited through Mizuma Art Gallery.

2003.02.23-05.11 39 歳 【Solo | P06 Canon on the Table】

「Canon on the Table」Newhouse Center for Contemporary Art、ニューヨーク
"Canon on the Table" Newhouse Center for Contemporary Art, New York
※ビデオインスタレーション「食卓の規範」の再展示。この時、天井付近の壁から溢れたものが垂れ下がる《Overflow piece (on the wall)》がインスタレーションに付け加わる。

2003.04.25-27 39 歳 【Group | P06 Canon on the Table】

「国際ニューメディア・アート・フェスティバル Videomeđeja」ノヴィサド、セルビア・モンテネグロ
"International New Media Art Festival Videomeđeja" Novi Sad, Serbia and Montenegro
※ビデオインスタレーション「食卓の規範」の再展示で、「project kitchen 2001」のほう。英名は "Canon on the Table (project kitchen 2001)" となっている。

2003.04.27 39 歳 【Award】

国際ニューメディア・アート・フェスティバル Videomeđeja (セルビア・モンテネグロ) 観客賞受賞
Audience Award, the International New Media Art Festival Videomeđeja (Serbia and Montenegro)
※受賞作はビデオインスタレーション「食卓の規範」(project kitchen 2001)／ The award-winning work was "Canon on the Table (project kitchen 2001)", a video installation.

2003.04. 39 歳 【Group | P01 Restoration Regeneration】

「Art of Recovery 1」Newhouse Center for Contemporary Art、ニューヨーク
"Art of Recovery 1" Newhouse Center for Contemporary Art, New York
※金継ぎで修復された《コテージ 3 のオーナメント》2002-2003 が出品された可能性あり／ Possibly included 《an ornament of cottage 3》2002-2003, repaired using the Japanese kintsugi technique, among the exhibited works.

2003 39 歳 【Group | P01 Restoration Regeneration】

「Art of Recovery 2」South Beach Psychiatric Center、ニューヨーク
"Art of Recovery 2" South Beach Psychiatric Center, New York
※個々の体験を綴った皿を割り、金で継ぎ合わせるという行為を通して心を修復するようなワークショップ／ a workshop where participants were to break the plates with a text of their personal experiences and to join the broken parts with "kintsugi", as if this act were restoring their heart.



2003.05.02-03 39 歳 【Group | P01 Restoration Regeneration】

「ISCP Open Studio」ISCP、ニューヨーク
"ISCP Open Studio" ISCP, New York
※ノヴィサド (セルビア・モンテネグロ) で目にした爆撃で落ちた橋を、金色の花タンポポを使って架空の修復をした作品／ a fictional restoration of broken bridges she had witnessed their bombing in Novi Sad, Serbia and Montenegro, with golden dandelions



2003.05. 頃 39 歳 【Residency | P10 Beyond the Gravity ほか】

Banff Centre for the Arts (バンフ、カナダ) 滞在中制作
Artist-in-Residence, Banff Centre for the Arts, Banff, Canada
※《その重力を超えて 2》"Over the Gravity 2"を制作、発表。また、映像作品の制作や、《溢れる》"Overflow"の再編集。

2003.06.01-09.01 39 歳 【Solo | P01 Restoration Regeneration】

「Traffic」 Newhouse Center for Contemporary Art, ニューヨーク
"Traffic" Newhouse Center for Contemporary Art, New York
※新作の《fold globe》、ビデオ《my name is Ghost》によるインスタレーション展示

2003.07.17-09.06 39 歳 【Group | P01 Restoration Regeneration】
「Revolving Door: ISCP <-> Asia」 Chambers Fine Arts Gallery, ニューヨーク
"Revolving Door: ISCP <-> Asia" Chambers Fine Arts Gallery, New York
※キュレーション: Yasufumi Nakamori. 会場のギャラリー一壁のひびを金継ぎで修復したことに関連する作品《Chambers fine arts gallery, NYC, USA》2003 を出展。

2003.09. 39 歳 【Group | P14 Sumter Full Pots Garden】
「Accessibility 2003」ソムター、サウスカロライナ州
"Accessibility 2003" Sumter, South Carolina
※キュレーション: Jane I. Allen. 地元の方に家の鉢植えの植物を紹介していただくビデオインタビューを実物の植物の前で上映。140 鉢以上が集まった。

2003.10.09-12.39 歳 【Solo | P18 California Lemon】
「California lemon sings a song」 Women's Art Resource Centre (WARC), トロント
"California lemon sings a song" Women's Art Resource Centre (WARC), Toronto
※Tranz-Tech 2003 関連企画、キュレーション: Nina Czegledy. ローテク・サウンド・インスタレーション《歌うカリフォルニアレモン》の再展示。/ Tranz-Tech 2003 affiliated program, curated by Nina Czegledy. Reinstallation of a low-tech sound installation《California lemon sings a song》.

2004.01.24-03.28 40 歳 【Group | P08 Telling Tasmanian Tales】
「Living Together is Easy」水戸芸術館現代美術ギャラリー
"Living Together is Easy" Contemporary Art Gallery, Art Tower Mito
※ビデオ・インスタレーション《タスマニアのはなしを語る》"Telling Tasmanian Tales (T. T. T.)"の再展示。金継ぎのワークショップ。

2004.05.26-07.11 40 歳 【Group | P05 Trace the Skin】
「アートがあれば」東京オペラシティアートギャラリー
"Why Not Live for Art?" Tokyo Opera City Art Gallery
※高橋龍太郎コレクションのコーナーにて《内なる被服、内なる掛布》"Internal Dress, Internal Quilt"の再展示。

2004.06.06-08.29 【Group | P10 Beyond the Gravity ほか】
「Officina Asia」Palazzo dell'Arengo, リミニ
"Officina Asia" Palazzo dell'Arengo, Rimini
※《その重力を超えて》"Over the Gravity"、《よちよち歩き》"Babywalk"の再展示。《歌うシシリアンレモン》の(再?) 展示。

2004.08.26-11.07 40 歳 【Group | P08 Telling Tasmanian Tales】
「Living Together is Easy」National Gallery of Victoria, メルボルン
"Living Together is Easy" National Gallery of Victoria, Melbourne
※水戸芸術館現代美術ギャラリーからの巡回展。

2005.01. 頃-03. 頃 【Solo | P04 Name of Water】
「Name of Water」Palais Porcia, ウィーン
"Name of Water" Palais Porcia, Vienna
※ウィーンにて AIR. 零下 20 度の厳冬、滞在中のウィーンからチェコやスロバキアに足をのぼし、多くの河川の雪氷を泳いで展示。3 月 1 日に在オーストリア日本国大使館広報文化センターにてお茶会を開催した可能性がある。また、MAK Museum of Applied Arts で金継ぎに関するレクチャーを行い、所蔵品に金継ぎを施した。

2005.03.10-11 【Research】
「S&A サイエンス&アートの集い vol.1 人類学とマルチメディア (多摩美術大学共同研究) (かいひん荘鎌倉) にて発表。
※他の発表者は茂木健一郎、松木宏之、伊藤俊治。主催者から発表を打診された 3 月 1 日付けのメールへの返信には、3 月 9 日にウィーンより帰国、3 月 12 日にタイに向けて出国の予定と書かれている。

2005.03.16-04.09 【Group】
「Since 1994」ミヅマアートギャラリー
"Since 1994" Mizuma Art Gallery

2005.03.31-06.30 【Group | P02 White Book ほか】
「Interweaving Cultures」Jim Thompson Art Center, バンコク
"Interweaving Cultures" Jim Thompson Art Center, Bangkok
※「Interweaving Cultures Project」の「Research Trips」のひとつとして 2025 年 3 月に行われた「Workshop with local children by Kaoru Motomiya in Bangkok」の成果発表を兼ねる展覧会。サウンドインスタレーション「白い絵本」"White Book"は、ラグマットに横たわると子供たちの創作した物語の朗読とその英訳が聞こえる。「橋を測る (四つの球体) "Distance"は、子供たちが 4 つの橋をシルクリボンで測り、そのリボン丸めると手のひら大の球体となる。工事現場の廃棄ポートも修復。アリアンス・フランセーズの AIR だった可能性がある。

2005.09.20-10.15 【Solo | P01 Restoration Regeneration ほか】
「MOTOMIYA KAORU 2005」ミヅマアートギャラリー
"MOTOMIYA KAORU 2005" Mizuma Art Gallery
※《カメの金継ぎ》《カタツムリの金継ぎ》《カエデの金継ぎ》ほかの出品。カメやカタツムリは生きており期間中何度も脱走。バンコクでの「白い絵本」の鳥籠や「橋を測る」の枕も再展示。

2005.09.26-10.20 【Solo | P02 White Book ほか】
「white book」DISCO (北仲ホワイト内)、横浜
"white book" DISCO in Kitanaka White, Yokohama
※「白い絵本」の再展示。北仲ホワイトでは村田真の部屋の壁のひび割れにも金継ぎしている。

2005.12.03-23 【Group | P04 Name of Water】
「ドロップインギャラリー」遊工房アトスペース、東京
"Drop in Gallery" Youkobo Art Space
※「水の名前」の再展示。「アーティスト・イン・レジデンスほんとうの話 vol.1, DAY 1 (12月3日)、DAY 2 (12月10日) に登壇。

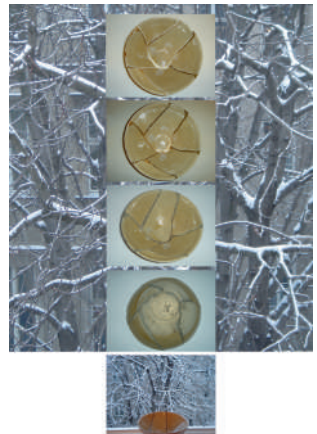
2006-2007 【Education】
テンブル大学ジャパンキャンパス Arts and Sciences
Arts and Sciences, Temple University Japan Campus

2006.02.27 42 歳 【Life】
中ザフヒデキと離婚。本名が本宮香となる。アロアロインターナショナルには引き続き取締役として残り、ばくちよ・ばんちよも引き続き飼主として中ザフと共同で面倒を見る。

2006.03.01-07 【Group | P01 Restoration Regeneration】
「Aランチ」AXIS Gallery ANNEX、東京
"A Lunch" AXIS Gallery ANNEX, Tokyo
※《カタツムリの金継ぎ》を再展示。

2006.05. 前後 【Residency】
BankART アーティストインスタジオ (AIS) をしていた可能性あり (BankART Studio NYK, 横浜)。
※5月16日にはMIACAの「The Real World! 欧州発最新ビデオアートスクリーニング」第3回セッションに登壇。

2006.07.22-30 【Group | P04 Name of Water】
EIZONE@BankART1929、インベリアビルギャラリースペース、横浜
EIZONE@BankART1929, Gallery Space at Imperial Building, Yokohama
※BankART1929 近隣施設での「Private EIZONE」に参加。インベリアビルギャラリースペースにて、みずとあかり「水灯屋」(「水の名前」再展示)。/ "Water and Lights store SUTOYA"



2006.11.03-05 【Group | P15 Planters 100 in Yatsuo】

「八尾スローアートショー 2006」 富山

"Yatsuo Slow Art Show 2006" Toyama

※ディレクター：山口尚之。ソムターで行った鉢植えの展示と同様のことを、富山県の八尾でも行った。



2007.01.12-02.18 【Group | P04 Name of Water ほか】

「Restaurant 1929—食と現代美術 part3」 BankART1929、横浜

"Restaurant 1929: Art and Food Part 3" BankART1929, Yokohama

※ウィーンでの「水の名前」の水を、ウィーン市街の骨董市のガラスボウルにそれぞれ封印。骨董のランプシェードを帰国後に繕って横浜で点灯。また、金継ぎのワークショップも行った可能性がある。

2007 【Certification】

広山流華道教授師範修伝

Master Instructor Certification, Kozan-ryu School of Ikebana

2007-2008 【Education】

バウハウス大学ワイマール International Public Art Programme 準備課程語学研修

Language Preparatory Course for the International Public Art Programme, Bauhaus

University Weimar

2007.03.01 43 歳 【Certification】

裏千家茶道「正引次」受伝。

2007.05.08 【Group | P01 Restoration Regeneration】

「交差 10 Japanese Artists」 Queens Street Gallery、ベルファスト

"Intersection: 10 Japanese Artists" Queens Street Gallery, Belfast

※遊工房との交流により 3 月よりベルファストにて AIR、食器に金継ぎ。

2008.01.11-29 【Group】

「食堂ビル 1929—食と現代美術 part4」 BankART1929、横浜

"Restaurant 1929 Again: Art and Food Part 4" BankART1929, Yokohama

※「Restaurant 1929 Again」への参加

2008.02.16-04.13 【Group | P01 Restoration Regeneration】

「シェルター × サバイバル」 広島市現代美術館

"Shelter × Survival" Hiroshima City Museum of Contemporary Art

※「再生を助くる室（へや）」としての展示で、ベルファストの食器や鎌倉のカタツムリ、ワイマールのセーター等を展示。黒川紀章が建築した美術館の壁のひびも金継ぎ。金継ぎのワークショップも行った。／ Exhibited as "Resurrection Room", featuring tableware from Belfast, snails from Kamakura, and pullover from Weimar. Cracks in the walls of the museum designed by Kisho Kurokawa were also repaired using the technique of kintsugi. A kintsugi workshop was held as part of the exhibition.



2008.04.08-09.14 【Group | P09 Dragon and Sky Hole】

「閩渡国際自然芸術祭」 閩渡自然公園、台北

"Guandu International Outdoor Sculpture Festival 2008" Guandu Nature Park, Taipei

※キュレーション：Jane I. Allen。温暖化をテーマとした野外彫刻展で、空想上の生物である龍の尾の上に光で色を変える特殊なペイントを施す。

2009.09-2010 【Education】

グラスゴー美術学校美術修士課程（MFA）に入学。グラスゴーでアパートを借り、制作活動。

Enrolled in the Master of Fine Art (MFA) programme at the Glasgow School of Art.

Rented an apartment in Glasgow and pursued artistic practice there.



2009.10.14-2010.04.05 【Group】

「CHAWAN-Teeschalen」 MAK Museum of Applied Arts、ウィーン

"CHAWAN-Teeschalen" MAK Museum of Applied Arts, Vienna

2009.11.04-12.05 【Group | P17 Capsule】

「November Steps — Susan Philipsz & Gallery Artists」 ミヅマアートギャラリー

"November Steps — Susan Philipsz & Gallery Artists" Mizuma Art Gallery

※グラスゴーで制作した《氷柱、すらすらと》"Icicle, swimmingly" を出品。魚影が水を封じた筒の中で浮遊する。

2009.12.10-12.20 【Group | P17 Capsule】

「Criteria of Beauty」 T1+2 ギャラリー、ロンドン

"Criteria of Beauty" T1+2 Gallery, London

※グラスゴーで制作した《こんにちは、クライド川》"Hello Clyde"、《氷柱、すらすらと》"Icicle, swimmingly" を出品。茶会も行う。



2010.02.16-19 46 歳 【Life】

一時帰国し、中ザワヒデキの母・中澤瑠穂子の葬送告別式に列席。／ She temporarily returned to Japan to attend the funeral service for Ruriko Nakazawa, the mother of NAKAZAWA Hideki.

2010.04.05-13 46 歳 【Life】

一時帰国し、グラスゴーでは盗聴等の被害に遭っていると中ザワヒデキに伝える。なおこの頃、精神的に不安定な状態となり、ミヅマアートギャラリーやアーティストらに多大な迷惑をかけたこともあったという。／ Returned temporarily to Japan and told Hideki Nakazawa that she was being subjected to surveillance, including wiretapping, in Glasgow. Around this time, she experienced a period of mental instability and is said to have caused considerable difficulties for Mizuma Art Gallery and fellow artists.

2010.04.21-07.05 46 歳 【Life】

ストビル病院に検査入院。外出が禁じられ、外部連絡も難しくなる。この間、ばぐちょよとぼんちよが相次いで日本で亡くなる。また、5月21日に面会に来た中ザワヒデキにより、自筆記入した婚姻届が6月2日に東京都渋谷区に提出され、中ザワヒデキと婚姻関係を回復。本名が再び中澤香となる。／ She was admitted to Stobhill Hospital for medical examinations. As she was prohibited from leaving the hospital and communication with the outside world became difficult, Pugcho and Poncho passed away one after the other in Japan during this period. Meanwhile, a marriage registration form that she had filled out and signed was submitted to Shibuya-ku, Tokyo, on June 2 by NAKAZAWA Hideki, who visited her on May 21, thereby restoring their marital relationship. Her legal name once again became Kaori Nakazawa.

2010.05.15-22 46 歳 【Group | P18 Encapsulation ほか】

「MFA InterIM Show」 Mackintosh ギャラリー & Newbery ギャラリー、グラスゴー芸術大学

"MFA InterIM Show" Mackintosh & Newbery Gallery, Glasgow School of Art

※詳細不明だが、大学の一角には《こんにちはクライド川》2009、スタジオには《 $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon, \zeta, \eta$ 》2010 が展示されていた。

2010.07.05 46 歳 【Life】

帰国。中ザワヒデキと東京都渋谷区に住む。茶事に精を出し、花を生ける。

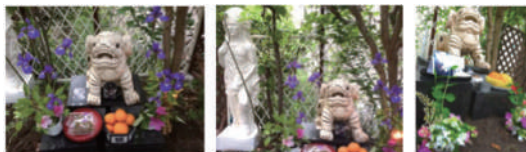
2011.01.18 47 歳 【Life】

母・本宮和子逝去（享年 75 歳）。

2011-2013 47-49 歳 【Education】

テンブル大学ジャパンキャンパス Arts and Sciences

Arts and Sciences, Temple University Japan Campus



2011.47 歳 【Website】

ホームページ「もとみやかをる作品活動記録」をほぼ作り直し、現行のデザインとする。

2011.10.01 47 歳

裏千家茶道「茶名」「紋許」受伝。これにより茶名が本宮宗香（もとみやそうこう）となり茶名額も作られたが、後に中澤宗香へと書き換え。

2013.06.09 49 歳 【Life】

義父・中澤省三逝去（享年 83 歳）。神奈川県平塚市の中澤実家が空き家となり、作品倉庫として使用し始める。

2015.07.15 51 歳 【Certification】

裏千家茶道「準教授」受伝。本人によるポートフォリオには「2015 裏千家茶道教授師範皆伝」とある。Master Instructor Certification, Urasenke School of Tea

2017 53 歳 【Life】

アロアインターナショナルの経理や税務等の業務を主導するようになる。

2018.05.05 54 歳 【Life】

神奈川県平塚市の中澤実家の庭に、永眠したばくちよ・ぼんちよの石室を掘える。御影石は、1995 年の NICAF で作品展示以来使っていたものを再利用。

2018.07.04 54 歳 【Website】

ホームページ更新。もとみやかをるの表記を全てなかざわかをるに書き換え、映りこんでいるワークショップ参加者や見物人の顔を全て隠す等の改変を施す。これが生前最後の更新となる。

2019.01.-09. 55 歳 【Life | P19 Wayfarer's Stone】

東京都渋谷区の自宅リフォームのため、神奈川県平塚市の中澤実家に移住。リフォームを細かく主導し洋間を和室に改装、茶事のための炉を切る。移住先の平塚では庭の各所に装飾を施し、ばくちよ・ぼんちよの墓に作品を添え、植物や虫についての手記を残す。

2019.03.09-05.26 55 歳 【Group | P01 Restoration Regeneration】

「美術館の七燈」広島市現代美術館開館 30 周年記念特別展

"The Seven Lamps of the Art Museum" Hiroshima City Museum of Contemporary Art

※2008 年の「シェルター × サバイバル」展で壁に施した《修復と再生》美術館の壁を金継ぎ》はその後も公開中だが、本展では展覧会テーマと合致することから出品作扱いとなる。後日談としては、2020 年末から 22 年の改修工事で作品は残すこととされて当該箇所を全面補修は行われず、2023 年のリニューアル以降も展示が続けられている。2026 年 6 月 27 日から 9 月 23 日まで開催予定の「コレクション展 2026-1」でも出品作扱いとなる。/"Restoration and Regeneration: Kintsugi for the Museum Wall", created on the walls during the 2008 exhibition "Shelter x Survival", has remained on public view ever since, but is treated as an exhibited work in this exhibition because of its close relevance to the exhibition theme. As a later development, during renovation work carried out from late 2020 to 2022, it was decided that the work would be preserved, and the affected area was not fully repaired. The work has continued to be displayed since the museum reopened in 2023, and will also be treated as an exhibited work in "Collection Exhibition 2026-1", scheduled to be held from June 27 to September 23, 2026.

2020-2022 56-58 歳 【Life】

自宅の階段の壁に多くの写真額を飾る。コロナ禍となる。<photo by SUZUKI Moeka>

2022.01.31 58 歳 【Life】

自宅の茶室にさるすべりの中野純・大井夏代夫妻をお招きしてフルコースでもてなす。これが実質的に生前最後の茶事となる。/ Hosted NAKANO Jun and OOI Natsuyo Oi of Sarusuberi at her home tea room for a formal chaji (tea gathering). This effectively became the last chaji she held during her lifetime.

2022 【Life】

平塚市の中澤実家の庭に倉庫兼住居を新築する計画を主導し、設計事務所との交渉にあたる。

2022.12.01 58 歳 【Life】

解離性大動脈瘤で急逝。享年 58 歳。

Passed away from a dissecting aortic aneurysm at the age of 58.



※この年表は本人作成のポートフォリオや各種資料を元に、ミヅマアートギャラリーをはじめとする皆様からの御協力をいただきながら、中ザワヒデキが作成したものです。調査はまだ途中で、2026 年 6 月 24 日段階のものです。

※This chronology was compiled by NAKAZAWA Hideki, based on the artist's portfolio and various archival materials, with the generous cooperation of many people, including Mizuma Art Gallery. Research is still ongoing, and the chronology reflects the state of knowledge as of June 24, 2026.